

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 港が丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

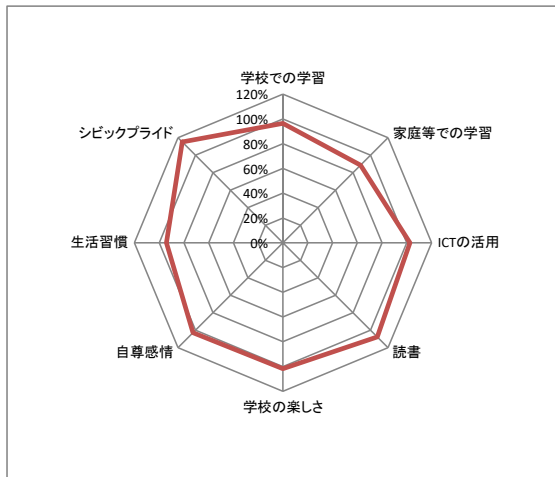
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○ 学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率より上回っている。 ○ 学習指導要領の内容「書くこと」「読むこと」については、全国平均正答率より下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。	
	努力が必要な問題	○ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 ○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。	

算数	全体的な傾向や特徴など	○ 学習指導要領の内容「数と計算」「図形」「データの活用」については、全国平均正答率より上回っている。 ○ 学習指導要領の内容「変化と関係」については、全国平均正答率より下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○ ( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる。 ○ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。	
	努力が必要な問題	○ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することができる。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ ICTの活用については、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の割合が全国を上回っていることから、学習情報の収集や自分の考えの表出、友達との考えとの交流など、ICTを活用した授業改善に向けた取組の成果が徐々に現れてきていると考える。
○ シビックプライドについては、「今住んでいる地域の行事に参加している」の割合が高いことから、コロナ禍を乗り越え地域学習や保幼小中の連携、地域行事等への積極的な取組の推進により地域の人々との良好なつながりが増えてきている。
○ 家庭学習については、「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」は全国平均に比べかなり低い割合となっていることから、家庭学習の取り組み方についての課題が明らかとなった。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

○ 国語科の学習においては、これまで同様に読書量の不足が大きな課題としてあげられる。質問紙の「学校の授業時間以外に読書をしますか」の回答にある不読率が高いことから読書習慣を身に付けさせるための取組が必要である。学校では、朝学習や行事等などの取組を工夫することで読書の機会を多く取り入れるようにしていく。
○ 算数科の学習においては、重要な語句について正しく理解させるための学習を充実させるために、数学的な活動の目的を明確にした指導の充実を図るようにしていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 家庭学習の一つとして読書習慣の向上を図るために、学校において「朝の読み聞かせ・読書カード」「読書通帳」「(図書室の本)お届けボックス」「読書クイズ・読書ビンゴ」など委員会活動の取組や、読書ボランティアの方々力を借りながら図書室の環境づくり(飾り等)にも積極的に取り組む中で、日常的に子ども達が読書に親しむ取組を推進している。
--